

## 「あおもり家庭教育アドバイザー養成講座 第4回」

中南地区：令和5年9月 7日（木）弘前市総合学習センター 受講者10名

下北地区：令和5年9月12日（火）下北文化会館 受講者11名

### 1 趣 旨

地域における家庭教育支援体制を整備するため、家庭教育支援者としての理論学習や心構えを学ぶ講座を開催するとともに、そこで養成した人材を「あおもり親楽プログラム」を使う研修会等に派遣する。

### 2 内 容

【講義】「子どもの気持ちを理解するために」

講師 青森明の星短期大学 子ども福祉未来学科  
准教授 高橋 多恵子 氏

【演習】「あおもり親楽プログラムⅡ」

進行 県総合社会教育センター職員



### 3 講義要旨

- ・子どもは孤立した存在ではない。保護者の子育てを支援することが、子どもの育ちを支えることにつながる。
- ・子どもの「内面」を理解する。表面的な言動だけではなく、その言動の背景にあるものを考え、心を寄せる。
- ・子どもの気持ちを理解するために、まずは「聴く」。子どものあるがままを「受け入れる」。子どもとの「つながりをつくる」。子どもの「心の流れに沿う」。
- ・子どもに関わる大人ができることは、伸びていこうとする子どもの邪魔をしない。大人がニコニコして、「大丈夫だよ」というだけで子どもは育つ。
- ・子育てで大切なことは、「大人のあたたかいまなざし」、「子どもの好奇心の芽を摘まない」、「子どもの力を信じる」こと。
- ・子ども時代に大切にしたいものは、「自分は愛されているんだ、大事にされる存在なんだと子どもが感じること」、「自分で決めて自分でやり遂げる経験をする事」、「心も体も、いろいろな経験をする事」。

### 4 アンケート結果から

- ・子どもに対しても傾聴が大事だということ、子どもの視野の狭さ、ものの見え方、一人の子どもの中にもいろいろな多様性を意識するなど、勉強になることばかりでした。
- ・子どもを理解することの本質を知ることができた気がします。今まで、自分の枠組みに合わせて子どもを捉えていたことを深く反省しました。「子どもも一人の人間」であるということを忘れず、子どもの気持ちが分かる人になりたいです。絵本の紹介、チャイルドビジョンの体験、とても有り難かったです。
- ・ただ今、育児真っ最中の私にとって、とても参考になり、心が軽くなるような内容でした。子どもの目線を知ることは、すごく新しい発見でした。これからの育児に活かしていきたいと思いました。
- ・「自立は、依存先を増やしていくこと」という考えは、とても共感できました。自分が困ったときに SOS を発信できること、挫折をしても周りの人に助けを求めながら自分でやり遂げる事等、全て今の自分に大切なお話しでした。来てよかったです。

講義では、現代の子どもの状況や子どもの特性、それを踏まえてどのように子どもに寄り添っていくか等を学ぶことができました。第4回からの演習は、受講者の方々に「あおもり親楽プログラム」の進行役を務めていただきました。皆さん、初めてとは思えないほどスムーズに進行していました。

